



先日、今年初めて野球の試合を見に行きました。

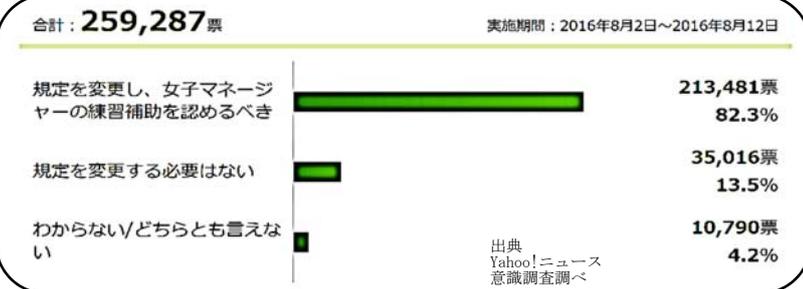


打球が飛んでこないかなと練習から見ていたのですが、「危険！」と書かれたプラカードとメガホンを持った球場スタッフを見て、ふと思い出したニュースがありました。

「ああ栄冠は君に輝く」のテーマでおなじみ、夏の高校野球甲子園大会。大会直前に行われた、とある全国大会出場校の甲子園練習でのことです。

その高校の女子マネージャーがグラウンドで練習に補助員として参加したところ、開始後約10分で大会関係者に止められるということがありました。

大会規定に、「危険防止のためグラウンドに立つのは男子のみ」と明記されていることが理由だそうです。女子マネージャーはこの日の為に背番号のないユニフォームを新調していたそうで、テレビやネットでは、女子生徒がかわいそうとか甲子園の規則は今の時代に合わないとか、はたまた女子に対する差別だとか、高野連の対応に対する批判が多く見受けられましたが、僕はいささか感情的ではないかと感じました。



実際、硬球には危険な一面もあります。2010年、観戦中ファウルボールの直撃を受けて片目を失明した女性が、札幌市や日本ハム球団などに約4700万円の損害賠償を求めた訴訟。

球団や球場側に約4195万円の支払いを命じた札幌地裁の判決の後、5月の高裁

での二審では、打球を見ていなかった女性にも過失があったとしながらも、日本ハム球団は打球の危険性を告知し**安全に配慮する義務があった**とし、球団に対し約3300万円の支払いを命じました。

話題になった裁判でしたが、どうやら上告の手続きがなかったようで高裁の判決で確定した模様です。

時間が限られる甲子園練習は貴重な機会。少しでも時間を有効に使おうと、キャッチボール、ノック、ボール回し等、同時に複数のボールを使った練習を行うので、やはり女子マネージャーには危険はあるでしょう。ただ、そもそも選手の力を引き出すサポートをすることがマネージャーの仕事。ならばマネージャーが原因で貴重な甲子園練習時間を犠牲にすることがあってはいけなように僕は思うのです。

主人公はあくまで選手だと思います。子供の頃から甲子園を夢見て、時にケガと戦いながら厳しい練習に耐え抜いて、まさに今、大きな夢を叶えようとしている選手達です。



実は、僕がコーチをしていた少年野球のチームでは嫌々野球をしていた我が家の娘も、高校に進んでからの3年間、自分の高校の野球部のマネージャーをしていました。ケガだろうが何だろうが、もし娘が原因で大切な大会前のチームに迷惑をかけるような事態があれば、きっと娘ともども申し訳ない気持ちでいっぱいになったでしょう。

(いや、甲子園に出るようなチームと一緒にするのも申し訳ないのですけどね。)(++)

チームの目的は何か？その中で自分の役割は何か？自分がすべきこと、できること。それを教えることも大人の役割ではないのかなって僕は思います。

さて、スポーツといえば、この夏はなんといってもオリンピック。体操の内村選手をはじめ、国を背負って、自分ができる極限に挑戦するアスリートの姿にはただただ感動させられます。勝者だけではなく、負けた選手にも感動があります。内村選手に最後の最後に逆転されたウクライナの選手の清々しさ、連覇の夢を絶たれて号泣しながらも勝者を讃えることを忘れない吉田沙保里さん、などなど。

ああ栄冠は死力を尽くした全ての君に輝く・・・ですね。(^^♪



小学生の時、ボールが当たって鼻血を出して笑ってごまかすうちの娘の巻。(--)

